

新潟県に災害をもたらした主な気象事例 平成30（2018）年1月11日から14日にかけての大雪

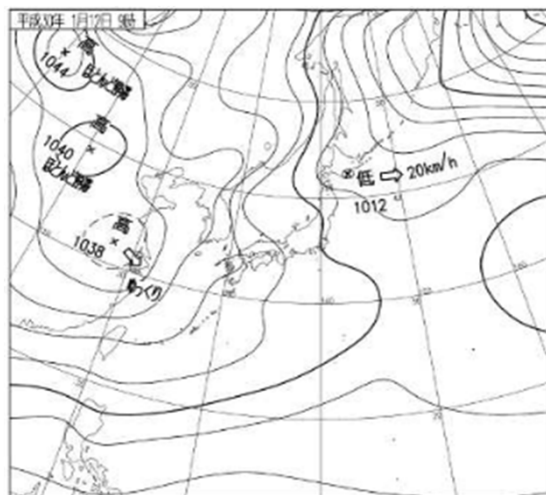
県内平野部を中心に記録的大雪 1日で100センチ以上の降雪も

【概要】

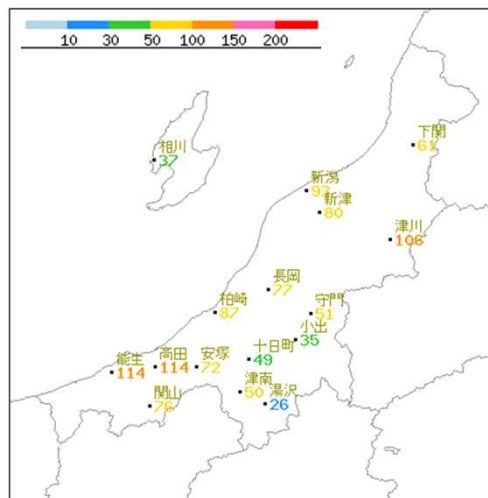
平成30（2018）年1月11日から14日にかけて日本付近は冬型の気圧配置となり、北陸地方には上空約5,000メートルで氷点下36度以下の強い寒気が流れこみ、11日から12日を中心に県内各地で記録的な大雪となった。11日から14日までの期間の日積雪差合計は、上越市高田、上越市能生で114センチ、阿賀町津川で106センチ、新潟で93センチを観測するなど、日本海に発生した低気圧や日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）等の影響もあり、山間部だけでなく平野部も含め広範囲で大雪となった。阿賀町津川と上越市能生では、積雪差日合計が統計開始以来の1位の記録となった。

この大雪によりJR信越線では11日夜から12日昼前にかけて積雪により立往生となったほか、高速道路の通行止めや航空機等の欠航が相次いで発生した。パイプハウスの破損や漁船の沈没等農水産業にも影響を与えた。また、除雪作業中に事故等により3名の死者や多数の負傷者が出た。

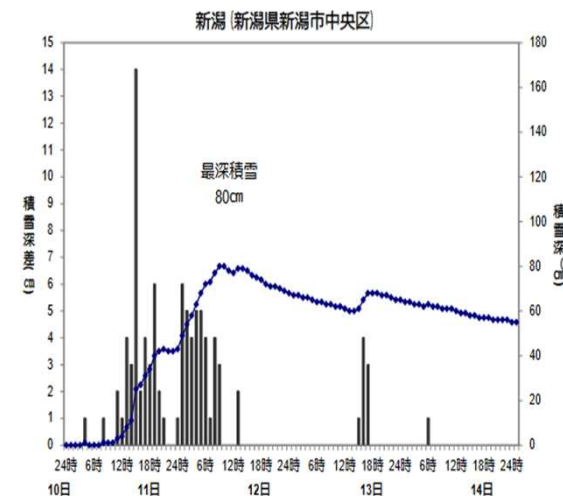
（被害状況：新潟県災害時気象速報、新潟県防災局危機対策課、日本経済新聞より）



2018年1月12日09時の地上天気図



アメダス期間日積雪差合計分布図
(2018年1月11日-1月14日)



新潟の積雪の深さの推移
(2018年1月11日-1月14日)